

令和2年度 第1回タウンミーティング

商工会青年部とのタウンミーティング

日 時 令和2年7月1日（水）19時30分～21時

場 所 web ZOOM 会議

参加人数 約50人

1) 青年部 部長 挨拶

- ・新型コロナウイルス感染の第2波の広がりにより不安を感じている。
- ・市では6月補正予算が成立した。今日は能美市の政策について話を聞き、情報を共有したい。

2) 市長 挨拶

- ・2020年前半は全世界が新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。後半に何をしていくかが大きな課題となっている。
- ・これまで能美市が行ってきた新型コロナウイルス感染症対策と、下半期に向けた政策を紹介し、意見交換をさせていただきたい。

3) 市長 講話

◎令和2年度の当初予算と能美市を取り巻く情勢

- ・本年2月1日に市政誕生15周年を迎えた。このときは東京オリンピック・パラリンピックが行われると思っていた。6月1日に能美市内で聖火リレーをし、鈴木雄介選手や平田しおり選手たちの金メダル獲得を祈願して、現地での応援、能美市でもパブリックビューイングでの応援を予定していたが、叶えることはできなかった。
- ・現在の能美市には、少子高齢化、担い手不足、自然災害、鳥獣被害、そしてアセットマネジメントによる老朽化した公共施設や道路、あるいは水道管等の維持管理など様々な課題がある。これらに対し、昨年度に引き続き、五つの柱と二つ方針に基づいた全ての施策で移住定住の促進に繋げていくということで、今年度スタートした。

◎新型コロナウイルス感染症対策予算

- ・能美市民や事業者の皆さんが大変な窮状をしいられているということで、3本の柱からなる政策を提案した。
 - 一つ目が、安全安心対策として感染拡大防止に取り組む強化策
 - 二つ目が、家計対策として市民の生活状況に寄り添った支援策
 - 三つ目が、経済対策として国県の施策を補完補充する応援策この3本柱を掲げて、4月の補正予算、5月の専決補正予算、そして6月の補正予算を計上した。

◎感染拡大防止対策

- ・「ステイホームのみ」を呼びかけ、市民へ外出自粛をお願いしてきた。
- ・小中学校では、3月、4月、そして5月の3回にわたって臨時休校を実施。
- ・6月1日から小・中学校全校で登校を再開することができた。現在、給食や部活動も再開している。
- ・保育園、児童館は開館していたが、預けるのが心配な方やお家で面倒を見られる方々には自粛をお願いしてきた。
- ・公共施設の休館も実施した。寺井地区公民館、根上総合文化会館、図書館、温浴施設などを休館した。
- ・そして、人が集まる飲食店などにも休業協力をお願いした。
- ・入手困難だったマスクについては、5月の連休明けから、一箱50枚入りのものを2,000円で市民に提供した。

◎5月に入ってからの施策紹介

【緊急時の備蓄品】

- ・1億円の予算を計上。そのうち約6,000万円をマスク調達に充て、市民、医療従事者、介護に従事する方々に提供した。

【GIGAスクール構想】

- ・新しい授業を始めるため、児童生徒、教職員に一人一台のパソコンを整備するために1億9,000万円の予算を計上した。

【スクールサポーター】

- ・臨時休校による子どもたちの学力低下を防ぐために、授業をサポートする支援員の配置に要する予算として144万円を計上した。

【家計対策給付金】

- ・国が家計対策として1人親世帯を対象に第一子に5万円、第2子に3万円の給付金を支給する。能美市としても1人親世帯に給付金を支給する施策を考えている。

【経済対策】

- ・新たに感染拡大の防止に取り組む事業者にも県の政策と合わせて10万円の給付を行う。持続化給付金として、これまで対象にならなかった理美容業や鍼灸治療院などの事業者にも10万円の給付を行う。国や県の政策を補完補充する政策を新たに行う。
- ・今後は、新型コロナウイルスの影響が長引くということを想定して、9月議会で第4弾の政策として補正予算を計上していきたいと考えている。
- ・こんな業界が困っている、こんなところに手を差し伸べて欲しいなどの要望があれば、意見を出してもらいたい。
- ・能美応援特典券を広報7月号の一番最後のページに掲載した。1枚で2,000円まで使える。約170店舗で使うことができ、利用できる店舗は広報のみ別紙で紹介した。ぜひ利用してほしい。

【応援メッセージ】

- ・能美市出身6人のアスリートから応援メッセージを頂いた。広報にも掲載したが、特にお子さん方へのメッセージが多かったので、ポスターにして市内の公共施設や、小学校中学校、のみバスにも掲示予定である。ご覧頂きたい。

【イベントの開催】

- ・市政15周年を祝い、ふるさと愛を感じてもらえるような事業をたくさん計画していたが、新型コロナ感染症の影響でほとんどが延期中止になった。
- ・5月の九谷茶碗まつりが延期になり、9月以降の開催について業界の皆様方と相談している。
- ・10月17日には、いよいよ新博物館「能美ふるさとミュージアム」が開館する。開館に合わせて、古墳まつりを行いたいと計画している。
- ・他にも、いろんなことを考えているが、社会情勢を見ながら判断していきたい。

◎新型コロナ以外の主な事業

【能美ブランド】

- ・能美市優良観光土産品として登録し推奨するこれまでの制度を見直し、今後は、伝統工芸品や日用品なども加えて、市内で恒常的に販売されている優れた製品を「能美ブランド」として認定していく予定で、選ばれることでメリットを感じてもらえる制度にしていく。

【スーパーホテル】

- ・能美根上スマートインターチェンジの隣接地にスーパーホテルの進出計画がある。

【クアハウス九谷】

- ・クアハウス九谷は建築から約30年が経過し、建物、設備ともだいぶ傷んできたこともあり、今後はエイムの経営で新健康増進施設としてオープンする計画である。
- ・これまで入浴施設として多くのご利用をいただいていた施設である。引き続き利用をいただけるよう工夫し、さらに子育て世代の方や、健康増進のためにも利用していただけるような施設として最先端の設備を導入してもらおう。ヨガやダンスができるホールも設置する予定である。美容と健康に気を配る青年部の皆さん方にも会員になっていただきたい。

【農村DX】

- ・農業の省力化・省人化をすすめ、おいしく、そして誰にでも選んでもらえる農作物を作ってもらうためにデジタル技術を活用していく。全自動の田植え機やコンバイン、消毒作業や水管理の作業にドローン等を活用していくようなことをやっていく。
- ・昨年10月に日本総研と北陸先端科学技術大学院大学、そして能美市の三者で協定を締結した。

【保育園の民営化】

- ・現在、能美市には15の市立保育園があり、市民から幼児教育の要望も多い。幼児教育の幅をさらに広げていくために、福島保育園を民営化することとした。

【北陸新幹線開業】

- ・2023年には北陸新幹線が県内に全線開業予定となっている。この県内全線開業の効果
を観光振興だけではなく、産業や移住定住の促進にも繋げられるように準備していく。

4) 市長から商工会員へ Web アンケート (選択制)

①ステイホーム中に何をしていましたか？ (結果 回答の多い順)

1. 仕事
2. 家族団らん
3. 家の掃除
4. 読書
5. その他

②能美応援特典券は何に使いたいですか？ (結果 回答の多い順)

1. 飲食店
2. 飲食品を買う
3. 生活用品を買う
4. その他に使う
5. 使わない

③コロナ終息後何がしたいですか？ (結果 回答の多い順)

1. 家族で海外旅行
2. 居酒屋で大宴会
3. 大きなイベント、まつり
4. コンサートへ行く
5. その他

5) 意見交換

(参加者)

①子どもや高齢者の利用が多い公民館などのコロナ対策に市は支援を考えているか。

(市長)

まず、感染拡大を防いでいくことに協力をお願いしている。検温やマスクの着用、
収容人数の制限をして、利用いただいている。

(参加者)

②GIGA スクールについて、実際に能美市内の小中学校で試験的にリモート学習を行
ったことはあるか。

(市長)

学校の先生が中心となりすでに始めている。今まで黒板を使って授業をしていた先
生が、パソコンを通しての授業となると、今までと教え方が全く違ってくる。ハード
が整備されていても、事前の準備が重要である。小学校・中学校それぞれの学年それ
ぞれの教科ごとにその準備をしている。

(参加者)

③これから能美市の保育園の民営化はどんどんされていくのか。

今まで勤めていた保育士の方々はどうなるのか。

(市長)

まず福島保育園をモデルにし、まずはどんなことをやり始められるのか、そして、
そこに通う子ども達がどんな印象を受けるのか、保護者の皆さんがどう思うのかとい
うことを十分に吟味して、好評であれば順次展開していきたいと考えている。

その一方でやはり公立の保育園が良い、安心して預けられるという声も実は多いので、そこはバランスを見て考えていきたい。

保育士については軌道にのるまで福島保育園に勤めてもらうことも検討をしている。今後、経営者と相談しながら決めていく。

(参加者)

④中学校の部活動について、市の大会など予定しているのか。

(市長)

県大会も中止になり、市として大会など何かやれないか検討を始めている。三密を回避した開催方法を前向きに検討し、三年生の最後の思い出作りができるようなことを検討している。

(参加者)

⑤子どものメガネを購入する方が子どもが誕生日を迎え9歳を超えてしまい矯正用の眼鏡の補助が受けられなかった、という話を聞いた。それに対して延長措置といったものを考えることはできないのか。

(市長)

調べてお答えする。

(参加者)

⑥ピアノ講師の方が県の新型コロナウイルス感染症対策の補助や支援を受けられず、市の支援にも該当しないため非常に困っていると聞いた。そのような業種の漏れもあるのではないか。

(市長)

漏れがないように考えてきた。その一つの条件として、対象期間中の収入が前年比30%以上50%未満減ったという方々を対象に政策を考えてきた。ピアノ講師のような業種の方の収入が大幅に減少しているということであれば、今後検討していきたい。

(参加者)

収入自体は変わらないが、リモートでピアノを教えるために設備投資をした。収入は変わらずに設備投資が増えて、とても大変だということだった。そういう例もある。

(市長)

今回の新型コロナウイルス感染症に対して、それを避けられるような新たな取り組みをする、または投資をされる方に対しても支援メニューがある。もしご利用いただけるのであれば市から紹介するので、その方にお伝えいただきたい。

(参加者)

⑦茶わんまつりを9月以降で開催する予定ということだが、現時点でどのような対策を考えているのか教えて欲しい。中止する基準があれば教えてほしい。青年部でのイベン

トの参考になる。

(市長)

今のところ9月19日、20日、21日の3連休が第1候補となっている。業界の皆さんと2ヶ月前に最終判断をする予定である。そこで9月三連休が難しいということであれば、現時点では11月の第一土日が最終の期限ということ想定して、2ヶ月前に判断をしていきたいというのが業界の方々と共通の認識である。

もし開催なら、どのような対策をして実施するのか。

(市長)

県外からも多くの方々が来られるので、マスクの着用をお願いし、会場には四方八方から入れないようにゲートを何カ所か設置して、そこで検温するなどが対策となるだろう。また、従来の茶わんまつりのテントでは密接になるケースが多いので、少し大きめのテントを張って換気をよくするなど、検討していきたい。

(参加者)

⑧感染防止対策で県は7月から50万円の追加支援制度が始まるとあったが、市は10万円で同じ条件なのか。

(市長)

県の感染拡大防止対策支援金制度は、全体の費用の5分の4を県が負担するというもの。市の制度は個人もしくは事業者が負担する残りの5分の1を能美市が支援するというもので、その上限が10万円という意味。県の政策と連動させた能美市の政策である。

(参加者)

⑨これから災害があった場合、避難場所が混み合うと思うが、分散化など、その対策についてどのようにお考えか。災害が起きたときに、避難場所が公民館もしくは学校などとあるが、避難場所の収容人数が3分の1だと残りの3分の2の場所の確保はどうなるのか。

(市長)

3分の1と言ったが、中には2分の1というところもあり、ケースによって違ってくる。今、能美市の指定避難所は35か所ある。それだけで十分ではなく、例えば学校や各地区の公民館などの施設も避難所として使っていきたいと考えている。

国の新たな避難の考え方があり、今までは避難所に逃げてくださいということが主体だったが、危なくないところにお住まいの方や危なくないところにいる方はそのままいてくださいとか、車の中に避難してくださいというような新たな避難の考え方も提唱されている。現在、能美市では新しい避難所のマニュアル整備を進めている。その整備が終わった段階で、できるだけ多くの皆様に、新しい避難所の考え方について周知していきたい。

(参加者)

⑩能美市の特別定額給付金が支払われたと思うが、どのような状況か

(市長)

申請された方が97%。そして申請された方に対して、実際に支給を終えたのは97%である。

(参加者)

⑪会社のベトナム人実習生に対して、災害に向けて会社から説明をしないといけないが、彼らに対して災害マップの配布など、市からどのようなことを案内しているのか。

(市長)

外国人の方には、能美市に引っ越しの手続きをされたときに、避難する場合はこんなことに気をつけてくださいとか、こんな場所がありますというマニュアルを渡している。さらに、今後必要となる対応を検討している。

(参加者)

⑫GO TO キャンペーンが8月ごろから始まるが、これを利用して能美市にも人を呼べるのではないかと思う。市では何か考えているのか。

(市長)

多くの方に能美市にお越しただけであればと思っている。10月17日に新博物館「能美ふるさとミュージアム」がオープンする。陶芸村にある九谷焼資料館も名称が変わったということも含めて、能美市の観光資源のPRを強めていきたいと考えている。

(参加者)

⑬家族でクアハウスへ行って、プールで子どもを遊ばすのが日課となっている。噂で子どもがプールに入れなくなると聞いた。子育て世代向けの施設と言うが、食い違っているのではないか。同じようにがっかりする人がいると思う。どのような方針になっているのか聞きたい。

(市長)

子育て世代と言ったのは、子どもということではなく、子育てをされてるほとんどの人が対象という意味である。これまで屋外プールはあったが、新しい施設には屋内のプールしかなく、どちらかという子どもが遊べる場所というよりも健康を重視する方向けのプールになる予定。大変申し訳ないが、子どもを遊ばせる場所は少なくなる可能性はある。

(参加者)

⑭新しい子どもの遊び場を企画するような考えはないのか。市長の考えはどのようなものか。

(市長)

能美ふるさとミュージアムにぜひご期待いただきたい。大変素晴らしい施設になって

いる。館内には「のみつけ」という愛称の「こどもミュージアム」を整備をしている。工事中の現場を見に行っただが、本当に子どもたちが楽しめる場所になる。

もちろんプールを縮小するというのは忍びないが、考え方の一つとして、年間を通じて雨の日でも遊べる施設を充実させていくことが、多くの市民、そして、子どもたちにも喜んでもらえるという思いである。能美ふるさとミュージアムに子ども達が遊べるスペースを作っているのです、ぜひご期待頂きたい。

(参加者)

⑮10月の新しいミュージアムの開館式はどのように行うのか教えて欲しい。

(市長)

能美ふるさとミュージアムのオープンを10月17日で予定している。毎年古墳まつりを秋常山古墳周辺で開催しているが、これを、この能美ふるさとミュージアムの開館に合わせてやりたいと考えている。コロナの感染状況を踏まえながら商工会青年部の皆様がたにもお手伝いしていただきたい。ただ、感染を拡大させてしまうということは何としてでも避けたい。状況を見ながら判断して青年部の皆さんにお声かけさせて頂く。

(参加者)

⑯緊急事態宣言中、折り込みチラシを自粛して、新聞屋の収入は折り込みの収入が大分減った。給付金の対象にはならないので、何かいい方法がないかと探している。

(市長)

新聞屋さんでもチラシが少なくなる、広告が少なくなるということで大変だったとお察しする。同じような業種の方がどれぐらい収入が減少したのかということ調査し検討する。

(参加者)

⑰能美応援特典券の取り扱い店に登録して、初めてのお客様からたくさん電話がかかってきた。お店の名前を知っていただけるともなったので、とても感謝している。

(市長)

そんな声をもらえると嬉しい。どうするのがいいのか、いろんなことを悩みながら出した施策である。多くの皆さんに喜んでいただければと思っている。

6) 青年部長 挨拶

市長と対話できる企画ができて本当によかったと思う。青年部の事業は、7月、8月は企画が無い状況である。9月からまた活動していこうと計画している。能美市には全面的にバックアップしていただき、能美市と一体になって地域を盛り上げていきたい。

今日はありがとうございました。

以上